

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572709558		
法人名	株式会社 和幸		
事業所名	グループホーム寿敬庵		
所在地	秋田県横手市十文字町腕腰字山道端79-11		
自己評価作成日	平成30年1月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成30年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成16年に1ユニット寿敬庵棟、平成18年に江洋館棟を設置しました。ご利用者様のその人らしさを引き出していただける様に支援しています。また、建物の周りには畑があり、畑作業が好きなお方や出来る方には畑仕事を手伝って頂いたりしております。ご利用者様には、家庭的な雰囲気の中でゆっくりと過ごして頂いております。平成29年6月には、地域の方が気軽に寄れる「ここで輪っこ」という地域密着型カフェをスタートしました。地域にある小学校の生徒や主婦の方やお子様、畑に来られた方々が休憩に使ったりしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎年理念の見直しを行い、職員会議やカンファレンスを通じて職員の共通認識を図り、利用者へのケアに取り組んでいます。利用者との会話やその行動からその人の思い、サービスの在り方を考え、その人に合った生活支援ができるよう努力しています。年に1度各職員がセルフチェックシートによる自己評価を行うこともサービスの質の向上に繋げる取り組みとなっております。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議で「寄り添い」という理念を掲げ、定期的な職員会議やカンファレンスで見直しを行いながら実践に繋げている。	職員会議で話し合っただけで決めた理念であることから職員全員の共通認識として取り組んでいます。理念の実現のために利用者には何が出来るかカンファレンスで振り返りの機会をつくり、実践に繋げていけるよう努力しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの受け入れ、行事への参加、会議への参加を通して交流を図っている。また、ホーム前の畑の方とお話をしたり、一緒にお茶会をしたりとの付き合いがある。	ホーム前の空き家屋に「地域サロン」を開設して地域に開放し、さまざまな催しに利用されています。利用者が近所の方と交流する機会もあり、地域と関わりながら利用者と繋がりが持てるよう努力しています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議へ行政の方・地域住民の方・ご家族様へ参加をお願いし、ホームでの活動内容をお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際、意見交換をしながら、サービス向上の為、アドバイスを頂いている。	写真で利用者の様子を見ていただきながらホームの状況を説明しています。参加者から意見が出されていますが、具体的な話し合いには至っておらず、会議が有効に活用されていません。	ネットワークを活かした情報発信の仕方を検討すると共に、ホームの取り組みについて具体的に話し合い、課題解決に向けた取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の担当者が都度、市役所へ足を運び連携を取っている。又、運営推進会議の行政の方との情報共有、意見交換も行っている。	運営推進会議で取り組み状況を伝えたり、窓口で直接出向いて関わりを持つようになっています。定期的に訪問する介護相談員と連携を図り、利用者の支援に繋げていけるよう検討しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、定期的に勉強会を開き正しい理解が出来ているかの確認に努めている。	状況に応じて対応を検討し、工夫することで身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待委員会を設置し定期的に勉強会を開き、正しい理解と防止対策として職員同士のコミュニケーション、気持ちよく働ける職場作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に成年後見制度を活用されていた方がおり、制度については理解しているものの、勉強する場が少ない為、今後も積極的に取り組む必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される際、ご家族様等にゆっくりと説明し質疑応答等しながら納得して頂いている。納得された時点で契約書にサイン・捺印して頂きお互いに保管している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見要望箱をホームに設置している他に、支払い時にも気さくに話しかけたり等して話しやすい雰囲気を作っている。また、相談や要望が出た時は、事業所全体で話し合い運営に反映させている。	面会時には家族が気軽に話してくれており、運営に反映されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見や提案が出た際には、事業所全体で話し合い、反映して頂けるように代表者へ伝えている。	何でも話せる雰囲気があり、会議以外の場でも意見を出し合って反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職場の勤務状況を把握し向上心が持てるよう研修や条件の整理に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々のケアを通して、良いサービスが出来る様に職場へ研修等を進め、個々がレベルアップ出来るように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他GHの勉強会や情報交換会へ参加し交流を図っている。また、他GHとのペアリングに参加しより良い所を取り入れてサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談の際、利用者様らしく生活出来るように要望等を聞き、コミュニケーションを図りながら安心出来るような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事や、利用者様の要望等を理解し、ご家族様ともコミュニケーションを図りながら、ご意向に沿える様努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に暮らしている中で、お世話させて頂くという気持ちを持ちながら、不安にならない様に傾聴し、一人一人に合わせた支援に努めている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状況や、要望等は都度伝えている他、2か月に1度どのように過ごされているのかをお手紙にて報告し安心して頂ける様努めている。又、手紙だけでなく写真も一緒に送付している。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り、外出や電話での会話等をして頂くことで今までの関係が途切れない様援助している。受診時等にも昔からの知り合いに会った際もゆっくりと話が出来るように配慮している。	生活習慣や本人の思いを大切にした支援が行われています。畑作業のために帰宅している利用者もおり、馴染みの場所のできることの継続支援に家族も協力してくれています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人を理解し、トラブルにならないような良い環境作りに努めている。トラブルになってしまった場合は直ぐに仲裁しお互いの意見を聞き、取り入れながら、今後へと繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設入所、帰宅等により契約が終了しても、お見舞いへ出向いたり、ご家族様からの電話での相談を受け入れたりと関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの暮らし方を理解し、利用者様の要望等を聞き入れながら、一人一人の意向等に沿えるよう努めている。	利用者の表情や会話の中から思いを汲み取ってその人毎のニーズを把握し、日々の生活支援に繋げています。情報共有とアセスメントに繋げるために効果的な記録ができるよう、様式の見直しを段階的に行っています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様やご家族様より、これまでの情報等を参考にし暮らし方や生活環境を把握できるよう努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の希望や情報を元に、実際の生活を見ながら自立と支援が必要な部分の把握に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、ご家族様の要望や生活の中での情報を元にケアカンファレンスにて職員全員で意見やアイデアを出し合っている。	担当職員のモニタリングを基に話し合い、利用者ができることを見極めて介護計画に反映させています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や食事・排泄状況等、一人一人の情報を細かく記録し職員間でも情報共有しながら、ケアプランへと繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での外食や買い物・出張理髪、訪問歯科等を利用し安全で豊かな暮らしを楽しめる様支援に努めている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所との関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は利用者様・ご家族様の希望等を大切に、納得のいく医療が受けられる様に支援している。また、かかりつけ薬局との関係も築きながら適切な医療を受けられる様に支援している。	入居前からの医療機関で受診しており、時に家族の協力を得ながら希望に沿った支援が行われています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と契約しており、週に一度健康チェックに訪問された際、一人一人の状態をしっかりと観察して頂き、アドバイスを頂いている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際、定期的に面会する事で安心して、入院・治療を受ける事が出来る様努めている。また、病院とも相談・情報共有する事で早期に退院出来る様努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた方針に関して、医師・訪問看護師、ご家族様と話し合いをしっかりと行い、方針を共有しチームで支援に取り組んでいる。	ホームでの看取りを経験しており、医師、看護師等関係者と連携し、希望に沿った支援ができるよう取り組んでいます。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変時に備えて、救命講習を全員参加してもらい、対応の方法等を身につけている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害委員会を定期的に関き、災害時の対応を全スタッフに周知している。	利用者と一緒にホーム独自で訓練を行っています。	季節や状況に応じて安全に通行できる避難経路の確保と協力体制の構築を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけに十分に配慮し、危険行為以外は否定等せず傷つけないよう支援に努めている。また、個人のプライバシーを確保するために他利用者様が間違えて居室に入らない様に声かけさせて頂いている。	その人に合った言葉遣いをする心を心がけています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「AとBどちらにしますか」等という出来る限り選択出来る言葉で、自己決定出来る様に努めている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの生活リズムに合わせて、希望に沿った支援を行う様にしている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様が女性の方であれば化粧やマニキュア等も一緒に行っています。また、着たい服を一緒に選んだり、理髪店で髪を切りたい時も一緒に行ったりと身だしなみを整える事が出来る様に支援しています。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節食や行事食を提供し、食事を楽しんで頂ける様に努めている。また、食事準備の際も、野菜の皮むきや包丁で切ってもらいを職員と一緒にしている。	調理の手伝い等、できることをしていただくことで利用者の力が活かされ、自信にも繋がっています。その季節ならではの食事を皆で楽しめる行事も開催しています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一回一回の食事量や水分量を記録し、栄養管理に取り組んでいる。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きに対し、出来る限り自分で行って頂くが、磨き残し等があれば職員が行っている。また、入れ歯も出来る限り自分で洗浄して頂いているが磨き残しがないか確認させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をもとに、排泄パターンをしっかりと把握して失敗を少なくし、トイレでの自立排泄が出来る事を目指した支援を行っている。	全介助の方もおりますが自立している方もおり、必要以上に介助せずに、機能が維持できるよう排泄票を活用した支援が行われています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を一人一人把握し、便通を考えた食事の提供や体操・腹部マッサージで便秘防止に努めている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の健康状態を把握し、週3回程度入浴できるよう努めている。また、拒否がある方へはタイミングや声かけの工夫を行い、入浴出来ない時は全身清拭を行っている。	拒否される方もおりますが、無理強いせず希望に沿って対応しています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中・夜間共に、今までの生活習慣を大事にし、入居者様一人一人に合わせた援助に努めている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が確実に把握し、都度医師に相談をしている。服薬支援としては、3度チェックを行い服薬忘れ等がない様に努めている。また、副作用等の体調変化の確認に努めている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴を把握し、家族と一緒に行事に参加して楽しんで頂き、気分転換が出来るように支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・ドライブ・外食・買い物等と外へ出る機会を作っている。また、お祭り等を行い楽しめるように支援している。	受診やドライブの帰りに墓参りに寄ったり、自宅近辺を通ったりと、本人の思いに寄り添った支援が行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出や病院受診の際等出来る限り利用者様が所持し支払う事が出来るように支援している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも利用者様自らがご家族様へ電話等連絡出来るよう支援している。また、年賀状を書いて頂いたりしご家族様・ご友人様とやり取り出来る様支援している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を活け、利用者様が季節を感じ取れるよう家庭的な雰囲気、得られる様にしている。また、行事の写真等を誰でも見られる様に廊下へ掲示したりし季節感を取り入れたり工夫している。	季節を感じとることができる飾り付けを心がけ、話題づくりにも役立っています。両ユニットの間取りは違い、それぞれが家庭的な雰囲気づくりをしています。一方のユニットの浴槽には介助スペースがあり、ユニット間で便宜を図ることができます。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに自分の席以外にソファやイスを数か所に配置し、ご利用者様同士で思い思い過ごせるような居場所作りを工夫している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が居心地よく過ごす事が出来る様自宅等で使い慣れた物に囲まれた安心して生活出来るようにし、ご本人の希望を聞いてベットを移動したり、物の配置を工夫して落ち着いて過ごせるようにしている。また本人の動きやすさも考慮した環境作りに努めている。	利用者が使い慣れた物を持ち込み、家族の写真を飾ったり、自分なりの生活の場に見えるよう希望を聞きながら環境づくりをしています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差の無い床、廊下には手すりを設け、自立した歩行が出来る環境の整備に努めている。また、トイレや居室にはプレートを使用し分かりやすい様工夫している。		